

荒川区が進める「MACCプロジェクト」は、荒川区独特の多彩な産業集積を活かし、区内企業の顔の見えるネットワークの形成を支援することで、荒川区の産業振興（商品開発や販路拡大など）を図ろうとするものです。「MACC通信」は、「MACCプロジェクト」に関わるホットな情報をお届けしていきます。

今回は、東京都デザイン導入実践セミナー、中小機構主催の「通販マッチング会」についてのトピックスです。

東京都デザイン導入実践セミナー開催

(株)日興エポナイト、(有)板垣製作所が成果発表

「MACCプロジェクト」会員企業の(株)日興エポナイト製造所と(有)板垣製作所は、平成20年度の東京都デザイン導入実践セミナー「商品デザイン基礎講座」を受講し、その締めくくりとしてこのほど、北区西が丘の東京都立産業技術研究センター（都立産技研）で、「成果発表プレゼンテーション」を行いました。

この「商品デザイン基礎講座」は、都立産技研が都内の中小企業者を対象に実施している講座です。「売れる商品づくり」という視点から、機能や感性を高める製品・商品デザイン、強みを活かす経営の展開、販売促進を図る営業プロセスやツールなどを実践的に学ぶことを特徴としています。

講座は毎年、1業種1社の原則で参加企業を募集し、平成20年度は13業種13社が参加しました。このうち、荒川区から(株)日興エポナイト製造所と(有)板垣製作所が参加し、平成20年7月から21年2月まで延べ20回の講義などを受講し、最終日に受講企業が実践的に学んだ成果をプレゼンテーションしました。荒川区企業2社のプレゼンテーションの概要は以下の通りです。



遠藤専務 プレゼンテーション風景

(株)日興エポナイト製造所

発表者 遠藤智久 専務

当社は国内唯一のエポナイト素材メーカー。創業は昭和27年。かつては同業者が20社ほどあったが、いまではオンリーワン企業となった。エポナイトは天然ゴムを原料とする硬質ゴム。機械的強度は金属に匹敵し、電気を通さない絶縁性、木材に近い低熱伝導性、独特の音響特性、耐水・耐薬品性に優れるといった特徴をもち、非石油系なのでエコ素材としても注目されている。

エポナイトはバッテリーケース、水道メーターなど産業用分野でも幅広く使われ、生活文化の変化の中で衰退したものもあるが、カメラのボディー、電話機、鉄道模型、釣具、宝飾品、ポウリングの玉など馴染み深いものから専門分野まで多様に使用されている。最近ではエポナイト製の万年筆や喫煙具、木管楽器の吹き口に使用するエポナイト製ピースなどもプロ好みの用品として人気になっている製品だ。

エポナイト製品は、型で成型する方法と、手作業で削る・磨くなどして作り上げていく方法がある。その両方の製造法が可能というのもエポナイト素材の特徴で、用途に応じて様々な形状、デザインを施し、最終製品や中間材料としてユーザーに提供できるので、エポナイトの市場性は大きいと自信を深めている。

今回、「商品デザイン基礎講座」を受講して、エポナイト

の特性を活かした商品づくりを検証し、その商品づくりと経営面での展開を効果的に進めるためのヒントを得ることができた。エポナイトのオンリーワン企業であることの強みを発揮して、商品開発に拍車をかけ、より積極的に市場を開拓していくことが必要だと考えている。

当社はいま、2つの夢をかけている。ひとつは、エポナイト製品を使った楽器による「オーケストラ」の実現だ。エポナイト製ハーモニカは音色が良いと愛用者が増えており、エポナイトの弾性を応用したギター用ピックも売れている。木管楽器のピースも期待が持てる。国の内外でエポナイトの利点をPRし、他の楽器への採用を増やして、“エポナイト・オーケストラ”の演奏による晴れ舞台を見たいと熱望している。

もうひとつは、エポナイト製品の産業分野への普及である。電気自動車や太陽電池の部材としても有望だし、宇宙船の部品などにも本格的に普及する時代を想定している。絶縁性、低熱伝導性、耐久性などエポナイトの特性をフルに活かした産業用部品は、まだまだ未開といわれるだけに、普及の余地は大きい。産業分野は使用量も多量化するの、この面の技術開発が事業拡大を左右するポイントになる。

また、これからの製品づくりとして、ユーザーや消費

者と一緒になって開発する「WITH PRODUCT」作戦を展開する方針だ。すでに喫煙具のパイプ、蒔絵柄の万年筆、印鑑、散歩用のステッキ、愛好家向けハーモニカなどを製作しているが、今後はエポナイト製品を広くアピールする展示会を開催したり、エポナイトの特性を活かした製品のアイデアを全国から募集する計画もある。

さらに、経営を展開するうえで重視していることは、地域連携、地域貢献である。一昨年から荒川区が進める「MACCプロジェクト」に参加して、製品開発から経

営革新までの取り組みを展開しているのもその一環。当社初の産学連携を進めて、製品開発に弾みをつけたことの意味は大きい。自社工場の一部を「モノづくり体験スポット」として一般公開し、区が主催する展示会「荒川区産業展」に出展してエポナイト製品をPRするなど地域との関係を深めている。こうした取り組みが製品開発を刺激し、企業基盤の強化に役立っていると実感している。

(有)板垣製作所

発表者 板垣 隆 代表取締役

当社は金属パイプの曲げ加工を得意とする金属加工業者。昭和35年創業の町工場だが、「MACCプロジェクト」に参加したのを機に、産学連携に取り組み、そこから新製品を生み出して、経営革新のきっかけをつかんだ会社だ。転機となった製品は、新たな発想の「自立する杖・フェレット」。高齢者を対象にした健康用品のイメージで商品化したが、「贈り物として母親にプレゼントしたい」という若者からも注文があるなど、想定外の反響もあって順調に販売を伸ばし、一応の成果をあげることができた。問題はこれからで、第2段階の展開を模索しているところだ。

製品開発は高齢者のニーズ調査をもとに、杖に対する既成観念を打ち破ることからスタートした。そのコンセプトは「65歳以上の高齢者が5人に1人の時代である」「日常生活では自分の足で歩きたいと思っている」「ニーズに合う杖が少ない」「そんな高齢者の自立をやさしくサポートする」ことにあった。当初は五里霧中だったが、首都大学東京の先生方や「MACCプロジェクト」の専属コーディネータなどの指導を得ながら、何度も試作を繰り返し、比較的短期間に完成品にこぎつけた。最終的に、杖が自立する椅子からの立ち上がりも安心、移動がスムーズ、軽量なうえ、装着した車輪が歩行をサポート、ユニークなデザイン、柔らかな感じ、安全強度試験済で、PL保険加入が可、オーダーメイド使用者の身長や(身障者の)症状に合わせて製作できる、袋もぶら下げられる、買い物にも便利...という杖が誕生したわけである。

「自立する杖・フェレット」を製品化したインパクトは大きく、平成20年2月にNHK総合テレビで放送され

て、全国各地から問合せや注文が寄せられた。それ以降、テレビや新聞、雑誌などのマスコミで取り上げられる機会が増え、その度に話題を集め、製品の売上も比較的順調に推移して、今日に至っている。当社は小さな町工場だが、この新製品のおかげで知名度をあげ、荒川ブランドの一角に加わることができたと思っている。

振り返ってみると、開発した“製品”を売れる“商品”に育てる過程で、重要なポイントになったのは、消費者の声だ。販売を始めてからは、なるべく電話で注文を受けるようにして、消費者の製品に対する要望や意見を直接聞いた。「フェレットを購入する動機」を聞けば、消費者ニーズの一端を知ることができるし、「困っていること」を聞くことで製品改良のヒントにもなる。意外にも「身障者の友人に贈呈したい」とか「高齢な母の誕生日プレゼントに使いたい」といった贈答用の注文も少なくない。そうした消費者の声を背景に、フェレットは健康・福祉分野のほか、医療分野の必需品として普及する可能性も広がってきたと思っている。

そのうえで、「売れる商品づくり」には販路の開拓が大切になる。特に、中小企業の場合は、待ちの姿勢でなく、自らが積極的に市場調査をし、様々な方策を研究して、対象とする市場・地域にあった販売手段を取り入れていくことだと思う。マスコミに取り上げてもらうために、積極的に働きかけるくらいがいい。今日ではインターネットの活用は不可欠だし、公的機関の様々な支援策をうまく活用するのも有効だ。

今回の講座を修了して、改めて、フェレットで蓄積したノウハウを検証して、次の製品開発に生かし、新たな「売れる商品」を具体化したいと考えている。

中小機構主催「通販マッチング会」に参加

～ (有)板垣製作所が「自立する杖・フェレット」を出品 ～

「MACCプロジェクト」会員企業の(有)板垣製作所は、独立行政法人中小企業基盤整備機構(中小機構)関東支部が主催した「通販マッチング会」に参加し販路開拓の成果をあげました。このイベントは、中小企業と通販企業の“出会いの場”というユニークな企画で、板垣製作所は新製品の「自立する杖・フェレット」を出品して、通販業者との新たなマッチングを具体化し、通販ルートの販路網を広げました。

中小企業と通販企業の“出会いの場”

この通販マッチング会は、中小機構と地域の支援機関が連携して、中小企業と通販企業とのマッチングの場を提供し、中小企業の商材(新製品)の販路開拓につなげ

るとともに、対象の商材(新製品)のブラッシュアップに役立てることを目指しています。

今回の通販マッチング会は、平成21年2月6日、東京・

虎ノ門の中小機構本部で開かれ、ここ1~2年の間に新製品を発表した中小機構関東支部管内の中小企業22社1団体がそれぞれの自慢の新製品を出品しました。これに対し、中小企業の新製品を商材として通販ルート売に乗せようとする通販企業11社が参加し、それぞれが相互にマッチングを図りました。

販路を広げる一策として

当日、板垣製作所は会場内に自前のブースを設け、板垣社長自身が説明役を兼ねて現場に立ち通販企業との商談に対応しました。出品した「自立する杖・フェレット」はアルミ製の軽量の杖。地面に接する部分に2つの車輪を取り付けて、手から離れても立っているのがセールスポイント。その姿が愛らしい動物のフェレットに似ていることから商品名とした製品です。袋をぶら下げるフックがあるので、高齢者の買い物にも便利と注目を集め、ヒット商品の様相を見せています。

通販企業からも「これまでの杖のイメージを一新したデザイン・機能が魅力」と関心を集め、複数の通販企業の商品戦略に加えられています。

会場では、まず、新製品の売り込みを意図する中小企業・団体がそれぞれに、販路先となる通販企業向けにプレゼンテーションを行いました。その後、それぞれが自社ブースを設営してデモンストレーションを交えてアピールし、そのブースを通販企業の幹部・営業担当者らが巡回して個別に商談を行うという形で行われました。



(有)板垣製作所の「自立する杖・フェレット」展示ブース(正面右、板垣社長)

なお、参加した通販企業は、(株)いいもの王国、(株)テレビ朝日リビング、(株)インターセクト、(株)デジタルダイレクト、(株)ADKインターナショナル、(株)アサダー・ディ・ケイ、(株)アイ・サポート、(株)

総通(日本直販)ヘッドロックオフィス(株)、(株)京乃豆蔵、(株)グランマルシェの11社。

荒川区・東京都立産業技術研究センター・城北信用金庫共催

MACC *プロフェット*

平成21年度 MACC産学交流会 「産・学・公・金」連携視察交流会

～ヒットする新商品開発の成功ポイント～

荒川区では第5回MACC産学交流会として「産・学・公・金」連携視察交流会を下記のとおり開催します。普段はなかなか見ることのできない東京都立産業技術研究センター内の視察等、新商品開発のためのヒントを得る貴重な機会となりますので是非ご参加下さい。お問い合わせ・申し込み先は荒川区産業経済部経営支援課 小貫(おぬき)・渡邊(わたなべ)(TEL:03-3803-2311)まで。

【開催概要】

日時：平成21年6月4日(木)15:00~18:00(懇親会：18:00~19:30)

会場：東京都立産業技術研究センター 西が丘本部(東京都北区西が丘3-13-10)

プログラム：(予定)

第1部 講演(15:00~16:00)

講演「成功する新商品開発のポイント」(東京都立産業技術研究センター主任研究員 薬師寺千尋氏)

講演「荒川MACCの新商品開発」(荒川区産学連携主任推進員(MACCシニアコーディネータ) 豊泉光男)

第2部 東京都立産業技術研究センター内視察(16:00~18:00)

1) デザイン・製品設計(CAD/CAM)部門

2) 試作品生成(光造成・RP)部門

3) 製品性能試験(物理化学的試験・振動・引っ張り・摩擦・暴露・塩水等)部門

第3部 懇親会(18:00~19:30) 会費：2千円

MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL.9

荒川出版物語

MACCシニアコーディネータ 豊泉 光男

季節はすっかり春本番になりましたね。春と言えば桜餅!・・・じゃなくて、さくら花ですね。ところで、荒川のお花見所といえば、一番に「荒川公園」ということになります。その規模もさることながら、使い勝手と居心地の良さといったら、もう荒川区民にはお馴染み過ぎて何の説明もいらないでしょう。つづいて、忘れちゃな

らない「尾久の原公園」のシダレザクラ。驚くなかれ、200本もあるんです。ご存じでしたか? 区民になってまだ8年目で若木ですが、なんてたって荒川区民のまごころのお手植えで「尾久の原公園」に居を構えることになった「若きエース」です。いつの日か、荒川の「チェリー・プロッサム・グループ(!?)」のメイン・ヴォー

カルとなるのを楽しみに待ちたいですね。

さて、今回の「TOMMYの部屋」は大東文化大学法学部・中村昭雄ゼミナール11期生編著『変わる！荒川区のものづくり』の出版物語をお送りします。

時は2008年3月、所は「荒川産業展」会場。なにやら黒のリクルート・スーツに身を包んだ12人の若者集団が、風雲急を告げるがごとく突如「MACCコーナー」に押し寄せた。一瞬、緊張感が走る。ガラスのハートの持ち主(！?)トミーは、それでも勇気を振り絞って(！?)気軽に(あれ??)声をかけてみた。

「学生さん? え? MACCについて、話が聞きたいんですか。奇特な方ですね。それでは・・・」

すると、一人の女子学生が凛として自己紹介を始めた。

「私たち、大東文化大学法学部・中村ゼミの学生なんです。今回は、荒川区の産業について勉強にまいりました。」

続いて、中村教授の登場。

「中村です。今度、中村ゼミで荒川区の産業につきまして、産業政策、支援状況、区内地域企業の紹介の本を出版したいのですが、宜しくお願いします。」

「トミーOK!!」の返事が後の苦勞につながることになるだなんて、そのとき学生たちは、きっと予想だにできなかったことだろう。

8月の炎天下、47の事業所への訪問インタビューは、荒川コンクリートジャングルとそれぞれのモノづくり工場の中で行われた。時は移ろい、10月に打ち合わせで再会した「ゼミ長」の津田さんの、げっそりと痩せこけた頬は、それまで2ヶ月あまりの努力と苦悩を惜しみなく表現していた。それからもさらに関係者へのインタビューは続いた。11月に各章の元原稿は仕上がったものの、これからがまた大変。今度は校正が始まる。初校、2校、3校と重ねるにつれ、徐々に出版用の原稿の体を為していく。

年明け1月にようやく原稿が上がり、いよいよ印刷・製本。「どうか神様! 3月14~15日の荒川産業展には間に合いますように!」と、苦しい時の神頼み。この日は彼らにとっても絶好の販売チャンスなのだ。学生たちの祈りが通じ・・・いや、努力が実り、なんとかギリギリ、3月11日には完成。みんな、よく頑張った! そして販売活動はその後も続く・・・。

終わってみれば、出版のステップは、新商品開発のそ

れになんと酷似していることか! つくづく感じ入った次第です。こうして刷り上がった『変わる! 荒川区のものづくり』の内容ですが、監修者の中村教授の巻頭言、西川区長の発刊にあたっての一言に続いて、第1章「巻頭座談会」は、荒川区産業経済部・高野部長、石原課長、豊泉シニアコーディネータ、大東文化大・中村教授、ゼミ生津田さん、古村さん、大沼さんとの座談会、第2章「荒川区の産業」は、荒川の産業の歴史、現状、政策展開、とくに「MACCプロジェクト」の紹介をしています。つづく第3章は企業インタビュー(荒川区の47社)第4章「学生座談会」は、学生の目線からみた「MACCプロジェクト」第5章は中村ゼミからの荒川区への政策提言となっています。



皆さん、是非読んでみてくださいね。(by TOMMY)

この本は、荒川区の産業の現状、産業政策、「MACCプロジェクト」の詳細について、一から十まで学生の手でまとめあげた力作であり良書です。登場企業の素晴らしさは勿論、学生だから見える! 学生だから言える! 斬新な視点と忌憚のないコメントは、刺激的でとても読み応えがあります。「MACCプロジェクト」にとっても、またひとつ貴重な財産となったことと確信しています。ぜひ多くの方々に手に取って読んでいただければありがたいです。なお、今回は自費出版のため書店では入手できません。ご希望の方は下記までお問い合わせいただければ幸いです。

最後になりましたが、学生たちのインタビューに快くご協力下さいました、荒川区47の事業所の皆様、産業技術高等専門学校さん、城北信用金庫さん、ありがとうございました。そして中村先生及び中村ゼミの学生さん、本当にお疲れ様でした。「MACCプロジェクト」をテーマとして取り上げてくださったことに、心より感謝申し上げます。上げる次第です。

大東文化大学法学部・中村昭雄ゼミナール11期生編著『変わる! 荒川区のものづくり』に関するお問い合わせ先

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1 大東文化大学 法学部政治学科 中村昭雄
TEL: 03-5399-7378 e-mail: clown-in.the.darkness@hotmail.co.jp
FAX: 03-5399-7379 定価: 1,260円(税込)



「MACC通信」に関するお問い合わせ先

荒川区産業経済部経営支援課

TEL: 03-3803-2311 FAX: 03-3803-2333

E-mail: macc@city.arakawa.tokyo.jp

MACCホームページアドレス

http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/